

2016年度

# 福井教区同朋大会

## 実施報告書 VOL.7

【 2017年5月18日作成 】



福井教区同朋大会実行委員会

もくじ

## ＜実施報告書＞

2016年度の福井教区教化事業「教化研修計画概要（P36 参照）」及び「教化事業計画（P1 参照）」記載のとおり、本年度は同朋大会の開催に向け、同朋大会企画会議を組織し（資料「福井教区同朋大会趣意書」P25 参照）、企画書の作成のため協議を重ねてまいり、12月12日に組織拡充小委員会に企画書を提出し承認いただきました内容に基づき、同朋大会の実施計画書を作成いたしました。

その後、同朋大会実行委員会の開催を重ね、実施計画書 vol. 6 までを作成し、教区内に広く周知してまいりました。

このたび、5月13日に福井教区同朋大会を実施し、本資料のとおり報告書を取りまとめました。

つきましては、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

### 2016年度 教化事業計画（抜粋）

#### ＜開催趣旨＞

（中略）

今回は、御遠忌テーマを継承しつつ多様化する社会の中で寺と門徒の関係が希薄化する厳しい現状を法難と受け止め、世代間の断絶により仏法が相続され難い問題に僧侶門徒が真摯に向き合える場の創造を目指したいと考えています。そのためには、1カ寺1カ寺が聞法の道場としてその機能を回復する方途を、参加者全員で課題を共有することができる同朋大会としたい。

#### ＜開催内容＞

開催内容は、早急に、組織拡充小委員会の委託を受けた教区同朋大会企画会議を組織し、数回の会合を重ねて同朋大会企画書を作成してその内容を明らかにする。これについて、組織拡充小委員会の同意を得、教化委員会への報告を経て、同朋大会実行委員会を組織する。

実行委員会は、全組から数名の委員を選任して、企画書の内容を具体化する施策を講じ、実行委員が所属する各組にそれぞれはたらきかけて開催準備並びに当日の運営にあたる。

### 企画会議 ワークショップの実践風景



# 1 同朋大会趣旨について (企画会議作成の趣旨文)

## 福井教区同朋大会 趣旨

テーマ 「つながる社会 つながるいのち  
～混沌とした世の中において何が大切か～」

福井教区においては2015年に「つながる」と銘打ち、宗祖御遠忌を勤修しました。しかし、終わってみると多くの徒労感が残り、何と、どのようにつながったのかわからないまま今に至っています。もちろんこの御遠忌が何の機縁にもならなかつたわけではないが、ある意味では今まで見ようとした多くの問題が浮き彫りになるよい機会となる御遠忌だったと言えます。

これまで教区・組・寺では門徒、僧侶、社会を対象に様々な取り組みが行われてきました。しかし、その取り組みは果たして受け手の視点に立っていたでしょうか。

今年度、3年に一度の同朋大会が行われます。これまで賑々しく開催されてきた同朋大会は、著名な講師を呼び、参加者を集め、聞いて帰るという集まりがありました。それは確かに真宗門徒が大切にしてきたご縁であります。しかし、「お寺のお参りが減っている」「若い人のお参りがない」などの状況を考えた時、今まで連綿と続けてきた形だけでよいのか精査していく必要があります。

そこで今回は大きく方向を変え、受けて視点に立ち、門徒と僧侶がひざ付き合わせて「私たちが今、どのような場を求めているのか」を語りあいたいと思います。

ある自治体が行なった調査によると、あらゆる世代に共通して「居場所」や「相談できる場」を求めていました。寺が安心できる居場所になり、真宗の教えが本当に人の苦しみに寄り添えるものとして機能していければ、蓮如上人がおられた吉崎御坊がそうであったように、自ずとつながっていき、僧侶が出来上がっていくものと信じます。

今、門徒・僧侶が何を考え、今後どうしていくべきなのか。ワークショップの様々な手法を取り入れ、ともに率直に語り合い、ともに楽しんで場を創造していく同朋大会を開催いたします。

## 2 基本日程

(1) 開催日 2017年5月13日(土)

(2) 会場 福井別院 本堂

(3) 参加人数 183名

内訳 ①住職・衆徒 47名

②坊守 24名

③門徒 112名

(4) 日程

13:30 開会式

- ・真宗宗歌
- ・教化委員長挨拶
- ・同朋の会 永年表彰 P4参照
- ・日程説明

13:50 基調講演 P5～参照

講師 井出悦郎氏 【「お寺の未来」代表理事】

14:50 休憩

15:00 ワークショップ P18～参照

「ペイオフマトリクス

～2016年度教区同朋大会版～」

班別発表 P27 参照



16:30 ジョハリの窓の発表 P33～参照

【寺族研修・門徒研修小委員会合同事業】

16:40 質疑応答 P39～参照

16:50 閉会式

・青少幼年センター部長安田雅氏挨拶 P41～参照

「子どもに伝えなければ寺院の未来はない」

・恩徳讃

### 3 永年表彰同朋の会 御披露



## 同朋の会 永年表彰

組名	寺院名	同朋の会	永年表彰年数
第1組	善林寺	善林寺同朋の会	50年
第2組	願應寺	願應寺婦人同朋の会	30年
第2組	願應寺	願應寺丸山同朋の会	50年
第2組	稱佛寺	稱佛寺同朋の会	30年
第3組	善良寺	善良寺同朋の会	50年
第3組	善良寺	善良寺同朋の会	30年
第3組	陽願寺	陽願寺同朋の会	50年
第3組	應善寺	應善寺同朋の会	50年
第5組	常照寺	常照寺同朋の会	50年
第9組	看景寺	看景寺同朋の会	40年
第9組	念正寺	念正寺同朋の会	40年
第10組	智敬寺	三国中央同朋の会	40年

※寺院教会番号順

## 4 基調講演 講師紹介・講師選定・講演資料

基調講演の講師をお願いした井出悦郎氏は、東京三菱銀行、経営コンサルティングのICM G社等を経て2012年に一般社団法人「お寺の未来」創業し代表理事を務めている。「お寺の未来」は、「未来の住職塾」「お寺360度診断」「お寺の広報サポート」「おてらおやつクラブ」など、寺の経営・運営に関するサービスや相談業務とプロデュースを手掛けている。特に「未来の住職塾」や「お寺360°診断」は、現在のお寺の真の姿と全体像を明らかにし、お寺の本質を守りながら社会環境の変化に対応した、実現性の高い寺業計画の策定を支援する取り組みです。真宗大谷派においても、「未来の住職塾」を推薦しており、真宗教化センターの取り組みにも「お寺の未来」の協力を得ています。



本年度、当派の参議会学習会（門徒代表の議員の学習会）に井出悦郎氏を講師に迎え、「社会からお寺はどのように見られているか」「これからのお寺・僧侶に求められていること」等について講演いただいたところ、出席者から「門徒が思っていることをよく表現いただいた」との声が挙がったと聞きました。早速、同朋大会企画会議メンバーで講演内容を確認したところ、寺族と門徒がお互いに「私たちが今、どのような場を求めているのか」を語り合う場を展開するきっかけとして、貴重な指摘であると感じました。

これまで同朋大会は、講師を招聘し、その講義を一方的に聞くといった形態でありました。2016年度の同朋大会は、その後のワークショップにおいて、また其々の寺院・団体において、一人ひとりが主役となって参加するための入口を開くための基調講演を井出悦郎氏にお願いいたしました。

### 以下、基調講演資料

講師資料 パワーポイントを添付  
(ドットインフォ上の添付なし)

## 5 教区同朋大会ワークショップ

### ① 「ワークショップ」とは？

ワークショップの原意は「工房」「仕事場」「作業場」です。

たくさん的人が工具を手にして、真剣な眼差しでモノづくりに打ち込んでいる場面を思い浮かべてください。ここから、ワークショップとは主体的に参加したメンバーが 協働体験を通じて 予想もしていなかった新たな気付きを生み出す場 を意味するようになりました。



会議や研修では、どうしても予定調和的に話が進む場合が多く、議長や講師が主役となって場を回し、参加者が脇役にならざるをえないこととなっていることはありませんか。

これに対して、ワークショップは、自発的に参加したメンバーが当事者意識を常に持ちながら一緒にになってつくりあげていく。主役はあくまでも一人ひとりの参加者 であります。

ワークショップの特徴・効果は多様にあります。「ビジョン作り」「危機を乗り切る」「バッドサイクルの脱却」「フォースフィールド」「SWOT」「親和図法」「ジョハリの窓」・・・等々。言葉で説明することは大変難しく、まずは体験していただくのが一番です。すでに会社や公共機関で取り組まれた方もそうでない方も、是非 「お寺の将来展望」「聞法の場（法座）の活性化」を志向するワークショップ にご興味をもっていただければと思います。

### ② ワークショップの班分け

大勢で一度にするタイプのワークショップもありますが、今回の同朋大会で体験するワークショップは、6人から多くて8人が適正であろうとの意見がまとまり、これを基本に班を構成いたしました。

さらに、より具体的・積極的な意見がでやすいように、なるべく寺院単位での班分けを基本としました。

これは、同じ寺院に関係を持つ者同士は、当然寺院の状況や取り巻く環境が同じである。そういう班でのワークショップは、寺院の現状に即した具体的な施策、また実現可能なものが積極的な話し合いによって導き出せるのではないかとの意見があったからです。また、ワークショップの体験を各寺院に持ちかえって、寺院での実際の取り組みにつなげていけるのではないかの声もあり、寺院別の班分けとしました。

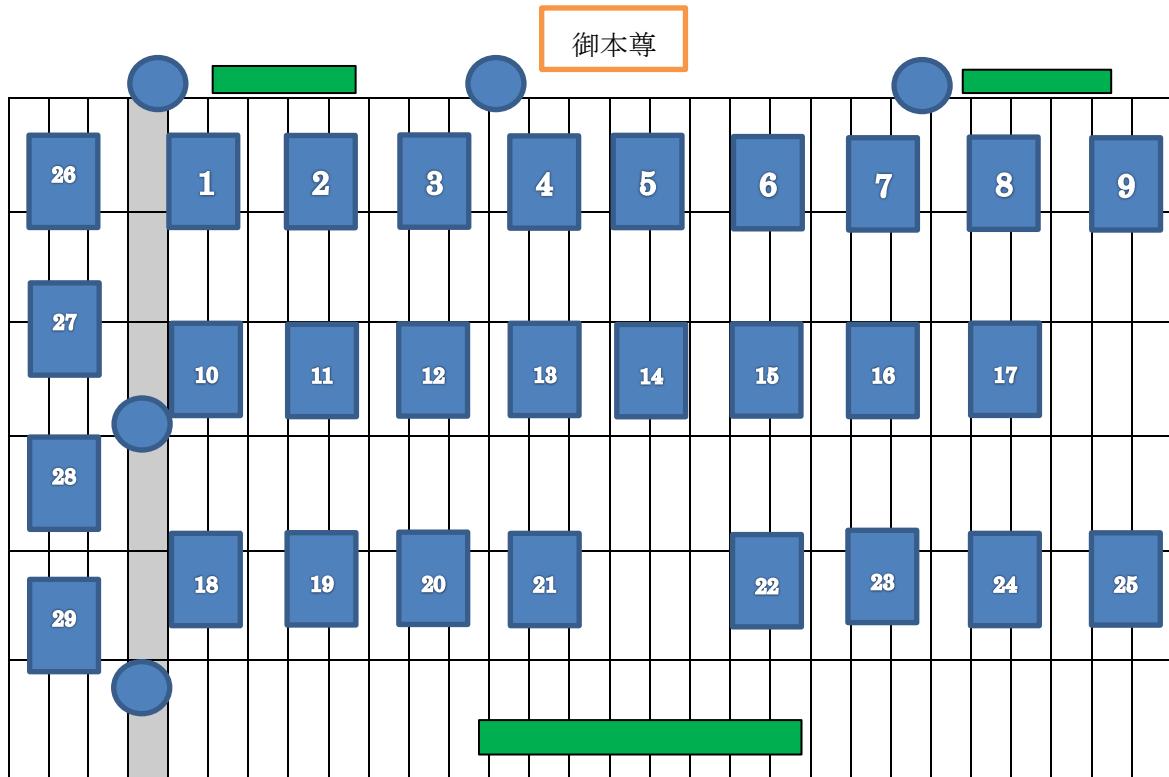
一方で、混成班でも、他寺院の取り組みや実情をお聞きするよい機会となるとの意見もありましたので、是非積極的に場を活用いただくこと願いとし編成いたしました。



## 【会場図（福井別院本堂内 略図）】

○全席椅子

● 堂内柱、■ 机 ■■■ スクリーン



### ③ 同朋大会当日のワークショップ

#### 「ペイオフマトリクス～2016年度教区同朋大会版～」

これまで、同朋大会当日のワークショップ内容について、「ワークショップ～寄り合い・談合の場の恢復を願って～」と題して、5回の研修会（同朋大会実行委員会・組門徒会研修・お寺診断。P28～参照）を教区の皆さんと実践を重ね企画してまいりました。

内容は、本日プロジェクターでスライド投影しながらご説明しました。



以下、ワークショップ説明資料

○ペイオフマトリクス  
ワークショップのパワーポイント

○班別発表内容を掲載

## 7 同朋大会に向けたワークショップ実践の取り組み

### (1) 同朋大会実行委員会の開催日程

#### ①実行委員会と参加事業の日程一覧 ※会場はすべて福井別院講堂

日時	開催名称	対象
2月27日（月） 14:00～16:00	同朋大会の つどい (実行委員会)	実行委員
3月 8日（水） 14:00～16:00	組門徒会研修	門徒の実行委員 組門徒会員
3月14日（火） 14:00～16:00	お寺診断	寺族の実行委員 寺族
3月30日（木） 18:00～20:00	同朋大会の つどい (実行委員会)	実行委員
4月 8日（土） 14:00～16:00	同朋大会の つどい (実行委員会)	実行委員
5月13日（土） 13:30～17:00	同朋大会	教区内門徒・寺族

#### ② 「同朋大会のつどい」（実行委員会）の開催日時の設定について

門徒研修小委員会主催の「組門徒会研修」と寺族研修小委員会主催の「お寺診断」を除き、2月～4月の各月1回開催の実行委員会には、より幅広い方の参加が得られるよう配慮し、「平日昼」「平日夜」「土日」の各クールにそれぞれ1回ずつ開催としました。

全てに参加いただきたいことですが、仕事や事情で都合がつかない方でも、同朋大会当日までに1回以上の参加をお願いしてまいりました。

なお、実行委員でない方も興味があるかたは、気軽に参加いただき、参加された方は、更なるお声掛けをお願いしての開催となりました。

## (2) 同朋大会実行委員会の開催報告

### <第1回 同朋大会実行委員会「同朋大会のつどい」開催報告>

開催日時 2017年2月27日（月）午後2時～午後4時

会場 福井別院 講堂

参加者 37名

テーマ 同朋大会のつどい

～寄り合い・談合の場の恢復を願って～ かいふく ※継続テーマ

確認事項 福井教区同朋大会実施計画書 vol. 4

実施内容

#### (i) 「自己紹介」をマインドマップ®で作ってみましょう

アイスブレイクとマインドマップ®の理解を深めるウォーミングアップとして、「自分」を中心に「出身」「夢」「2017年」「得意」「大好き」「歴史」などを項目に挙げブランチ（枝）を伸ばし細分化。自分自身を目に見えるように表現してみました。

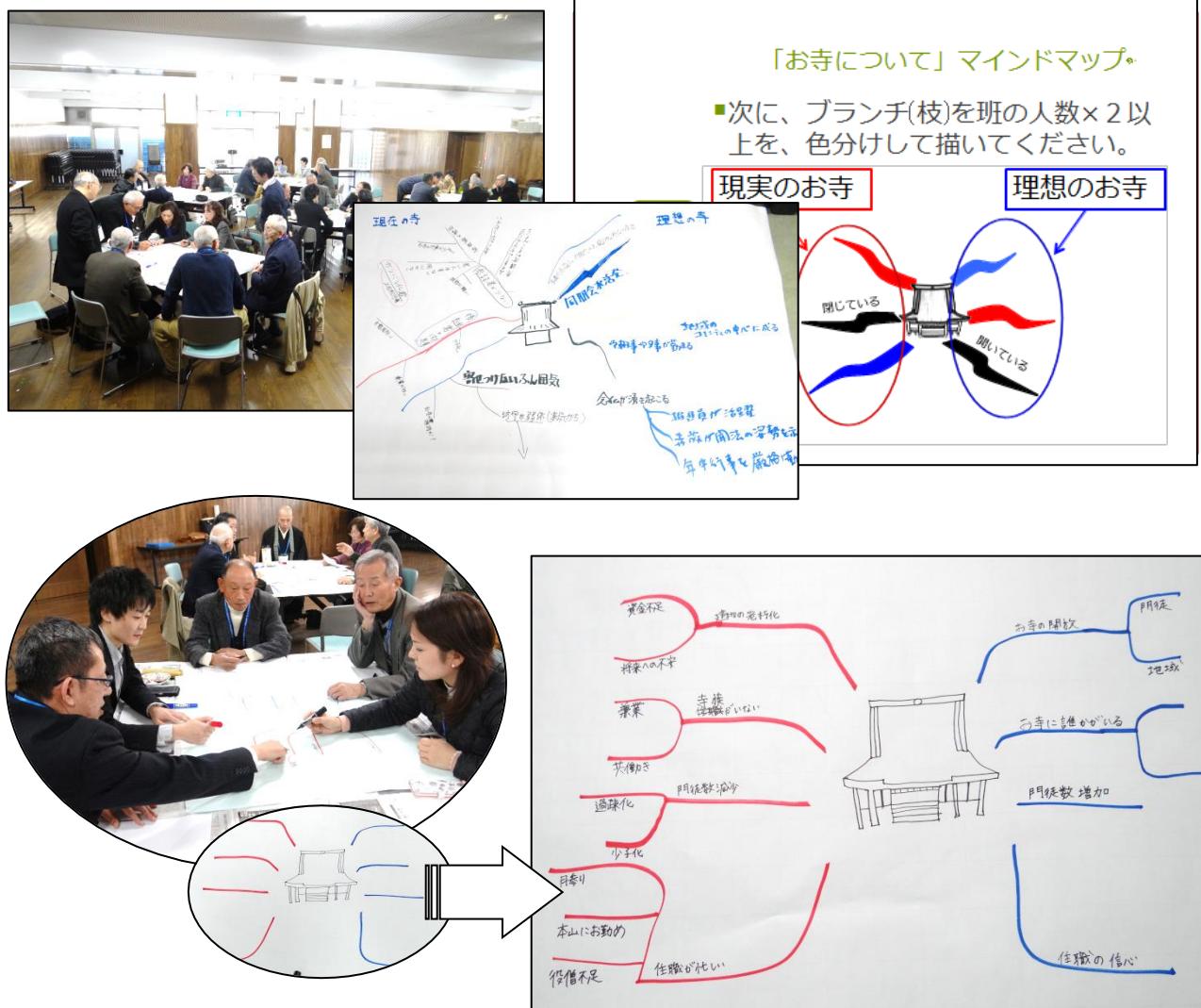


スライド（パワーポイント）  
で説明の後、自分の顔をA3  
用紙の真ん中に描いて・・・



自己紹介を作成したら、  
こんな感じで  
出来上がり！

( ii ) 「お寺について」マインドマップ®をグループで作ってみよう  
グループに分かれ、模造紙の中央にお寺を据えて、「現実のお寺」「理想のお寺」を左右で対比させプランチ（枝）を伸ばしていきました。



### ( iii ) 「お寺について」マインドマップ®のファシリテーターまとめ

- 今回はお寺を主題にしました。所属寺が違う方々が集まり様々な意見が飛び交いました。各お寺のご門徒や関係する方々と色々なテーマについて膝突き合わせて語り合ったり、課題の解決方法を導きだす手法として活用してみてください。
- 自分とは普段関係のない寺族や門徒と話し合う場はなかなかありません。同朋大会に向けて門徒と寺族がとことん話し合い、ワークショップをとおして、今まであたり前にしてきた寺・門徒の関係が、あたり前でなくなってきた今、それぞれの立場で何ができるのかを共に考えていく必要があります。

#### (iv) 参加者の声

今日はマインドマップをどのようにしていくのかと不安でしたが、スライドで説明してくれたので、分かりやすくてよかったです。

只、普段は沢山の思いや意見がありますが、いざ書こうとすると手が進まないところもありました。

<次も参加してみようと思われましたか?>

はい。また来ます♡



福井別院門徒の  
武田さん

頭の隅々まで神経がピリピリッと走り、  
なんか若返った気がいたします。(笑)

楽しくもあり、物足りないところもあり・・・・。  
もうちょっと踏み込んだところまで話し合いたかったので、あと30分ぐらい時間があったほうがよかったですかなと。

やっていると楽しくなってくるし、見えなかったところが見えてきたり、だんだんと率直な話してもてくるので、ワークショップの時間がもっとあってもよかったですし、もう少し話し合いたいところで終わってしまったかな。次回も楽しみにしています。



第1組の住職  
嵯峨さん  
(イメージ図)

今回の同朋大会のつどい(実行委員会)でのワークショップを通して、  
当たり前にしてきた関係の再構築を考えいただき、どうすれば再構築で  
きるかを考える手法を身につけました。ゆくゆくは1カ寺1カ寺で話し合  
いができるといいなど、参加者と共有できました。

## ＜第2回 同朋大会実行委員会「同朋大会のつどい」開催報告＞

開催日時 2017年3月30日（木）午後6時～午後8時

## 会 場 福井別院 講堂

参 加 者 24名

## 実施内容 「ペイオフマトリクス」

確認事項 ロゴマーク・同朋大会実施計画書 vol. 5



## ＜第3回 同朋大会実行委員会「同朋大会のつどい」開催報告＞

開催日時 2017年4月8日（土）

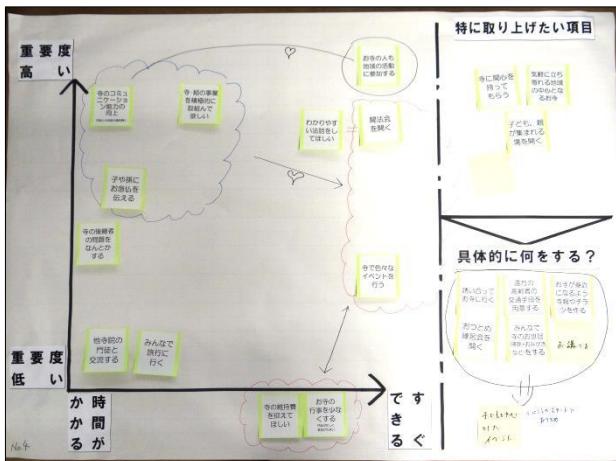
午後2時～午後4時

## 会 場 福井別院 講堂

参 加 者 37名

## 実施内容 「ペイオフマトリクス」

確認事項 募集要項・当日基本運営・実行委員の役割・スタッフ

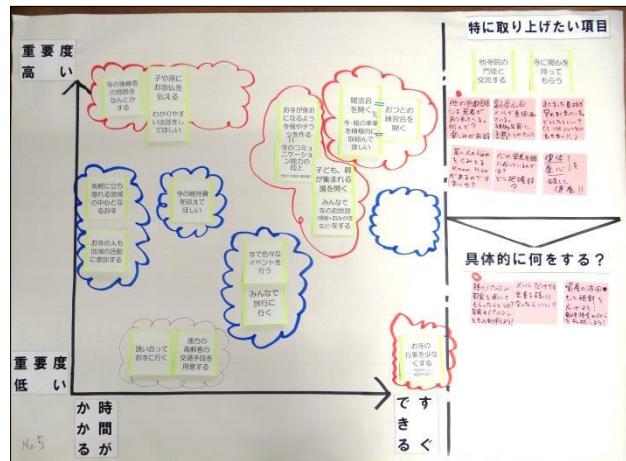


寺で取り組める事業を考えながらも、実はご門徒がどう寺と関わっているのか。お寺がどう外部と関わっているのかを問い合わせ直すよい機会になっていたようです。

参加者（実行委員）全員で、ようやく5月13日の同朋大会の下準備が整ってきたことを共感しました。

第2回・第3回と教区同朋大会当日のワークショップを実践しながら作り上げていきました。

回数を重ねた参加者の方もおられ、だんだんと理解いただき、積極的に、楽しみながら取り組んでいただきました。



## 8 「ジョハリの窓」の取り組みの発表

(寺族研修小委員会・門徒研修小委員会 合同事業)

### ①ジョハリの窓って?

「ジョハリの窓」を使って、他人の目に映る自分を知る「自己開示」と他人からの「フィードバック」で「開放」区域を広げることが人の成長につながるという理論。共同提案者のジョセフ・ラフトとハリー・インガムの二人の名前を合成した名です。

お寺、ご門徒やそこに関わる方々との対話によって今まで気づくことのなかったお寺の存在意義を発見し、機会としてとらえ、場を開き、情報を共有することの大切さを確認できる手法です。

門徒対象の「組門徒会研修」(3月8日開催)と寺族対象の「お寺診断」(3月14日開催)の研修会をとおして、「何が見えてきたか?」を同朋大会当日に発表いたします。

		「お寺診断」「組門徒会研修」	
		お寺が	
		知っている	気づいていない
ご門徒が	知っている	《開放の窓》 門徒も寺も 知っていること	《盲点の窓》 寺は気づいてい ないが、門徒は 知っていること
	気づいていない	《秘密の窓》 寺は知ってい るが、門徒は気づ いていないこと	《未知の窓》 誰からもまだ 知られていないこと

## ②「ジョハリの窓」のこれまでの取り組み

### ＜組門徒会研修会 開催報告＞

開催日時 2017年3月8日（水）午後2時～午後4時

会 場 福井別院 講堂

対 象 組門徒会員

参 加 者 96名（136名の欠席者からもハガキにてご意見いただきました。）

内 容 感話

#### ワークショップ「ジョハリの窓」

今回の企画は、「寺のことは住職任せ、問題があれば住職のせい」だけでなく、門徒の1人として、組門徒会員として「お寺にどう関わっているのか。どのように関わるべきなのか。」を考えていただくのが目的です。

組門徒会員の方々にて事前に2つの質問を考えてきてもらいました。

Q1 お寺に人が集まらなくなったのは、なぜでしょうか？

Q2 どうすればお寺に人が来るようになりますか？

この質問を回答を付箋に書いていただき、

①若者 ②高齢者 ③子ども ④家族 ⑤その他

5つの項目に振り分けてもらいました。

意見の中には、住職や寺のあり方に対する厳しいご意見が多く挙げられました。それは裏を返せばチャンスになります。また、組門徒会員としてあまりにもお寺に無関心であったと思われた方もおられたようです。

賑々しいことが必ずしも良しとはしませんが、今回の組門徒会研修会により寺の存在意義、あり方、ご門徒の思いなどを知るよい機会になりました。



## ＜お寺診断 開催報告＞

開催日時 2017年3月14日（火）午後2時～午後4時

会 場 福井別院 講堂

対 象 住職・坊守・寺族

参 加 者 18名

内 容 ワークショップ「ジョハリの窓」

今回お寺さんからは3つの質問に回答していただきました。

Q1 こんなお寺だったらいいなと思うお寺像

Q2 ご門徒と一緒にしたいこと

Q3 ご門徒に知りたいお寺の現状

お寺さんから出たご意見と、3月9日に開催されました組門徒会研修会でいただいたご門徒の率直なご意見を①若者 ②高齢者 ③子ども ④家族 ⑤その他ごとに用意したジョハリの窓に当てはめていきました。

「窓」を見ると双方で知っている部分もありますが、お寺の知らない部分、ご門徒の知らない部分がたくさんありました。

このジョハリの窓からは、

- ①ご門徒が寺に対して「こんな思いをもっていたのか」を知る
- ②そのご門徒の思いに応えられるかどうか
- ③それを実現するためにはどうすればいいのか

を考え、「お寺」が「ご門徒」が共に知っている《開放の窓》を広げて行くことがこのジョハリの窓の目的としてあります。



**以下、ジョハリの窓の取り組み発表 説明資料**

○ジョハリの窓 報告用 パワーポイント

### (3) 掲示板を利用しての「ジョハリの窓」を実施

福井教務所前の廊下にある掲示板を利用して、福井別院・福井教務所に訪れた多くの方々の声をお聞かせいただく、「ジョハリの窓」を実施しておりますので、お寄りの際は気楽に投稿ください。なお、寺院でもできる取り組みですので参考にしてみてください。

**皆さんのご意見をお聞かせください！**

「ジョハリの窓」(公募ver.)

- ① ふせんに簡潔に下記質問の答えをサインペンでご記入ください。

門徒用は**ピンク**、寺院用は**ブルー**のふせんに記入

**質問： 門徒が寺に願うこと・寺が門徒に願うこと**

- ② **ピンク**は赤い枠内に貼り付けてください。

**ブルー**は青い枠内に貼り付けてください。

- ③ 定期的にジョハリの窓に駐在教導が貼り替えます。

**注意** 質問内容から著しく外れる不適当な回答や、

個人を誹謗中傷する回答などははがすこともあります。

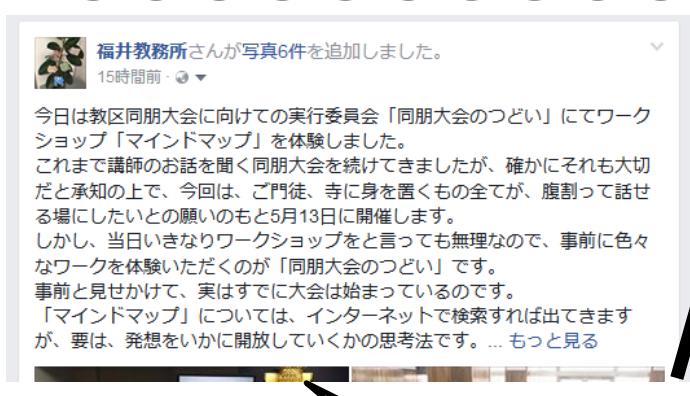
教務所前に掲示しています



## これまでの取り組みの広報について

福井教務所の Facebook (フェイスブック) をページ開設いたしました。教区の事業案内や報告、また教区内寺院事業も随時掲載してまいりますので是非ご覧ください。

ご意見・感想や「いいね」もどんどんお寄せください。



記事投稿画面

## 9 質疑応答の内容

« 質問1 » 第9組看景寺門徒 澤 善英 氏

私は、親鸞聖人・蓮如上人といった自分の興味を中心にお寺とのつながりもってきました。

一方で経済とお寺とはミスマッチなものと考えていたところがありました。潜在的にある需要と供給という市場原理は、お寺には適用されない相反するものであると思っていました。

本日、井出先生の経済的視点からのお話を聞いて、もちろん教義を大切にしつつも、社会での経済的な関係は切り離せないものであると考えることは、間違いではないということを教えていただきました。

そこでご質問したいのは、若い世代との意識の差をどうしていけばよいのか、どう若い世代にアプローチしていけばよいのか、先生はどうお考えですか。



« 応答 » 基調講演講師 井出 悅郎 氏

私自身、今の20代が何を考えているのか正直わかりません。

人間には「認知の限界」というものがあります。自分の見ている世界・視野で見ている範囲が中心となって感じてしまうということが前提としてあると思っています。その上で、その世代で流行っていることに身を置いて見るということが重要であると思います。

よくあるのが、世代間格差を埋めようとするときに、「自分の世代の方に引っ張ろうとするベクトル」が暗に働いていることがあります。これは上手くいかないんです。それよりも、その世代の流行っているものに飛び込んでみることが大切だと思います。

例えば、最近若い世代で流行っていました「君の名は」というアニメーション映画は、ご覧になった方はお分かりでしょうが、「あの世感」が満載なんです。そこから、こういった「死生観」の中で生きているんだなとビックリして、でも自分の感覚にはちょっとないなと。

そういうように、10代・20代がどういったことにどう感じているんだろうということ、その世代に歩み寄っていくことが大切だと思います。

ただ、それが経済的なものにつながっていくかどうかということは、結果論

であって、「その世代に飛び込んでいく」ということが大切です。

あともう一点が、「まかせる」ということです。人間はやらされるのは嫌なことであって、強制するのではなくて任せしていく、委ねていくことが大切です。企業でもマネージメントの極意でもあり、どこまで任せていけるか、「どこまで腹を据えて任せていけるか」が重要であります。

その「世代に飛び込んでいく」「まかせていく」ということが、世代の違いにおいて大切な点となってくると思います。

---

#### 《質問2》 第8組圓徳寺門徒 池田 宏行 氏

実際にお寺に寄付をしたという方は段々と少なくなっていますし、寄付金額が低い方に低い方にという流れがあります。そこに不安をもっています。

#### 《応答》 基調講演講師 井出 悅郎 氏

これから時代は一律の寄付は難しくなっていくのではないかと考えています。お布施がここまで「金銭資本に集約」されてきたのは茲50年ぐらいの歴史であろうかなと思います。これは「日本が中産階級が世界史上稀に見る発達をした結果」であって、これからはそういう時代は終わって、寄付できるお布施できる人がすればいいという時代になりつつある。「強制的な寄付な時代遅れ」になりつつある。



そういった中で、お布施できる人はするという自発的な気持ちに、どういう風に、寺院の運営としてもっていけるかが重要となってくると思っています。

昔であれば大旦那が寺院を支えていたということがあります。この大旦那的な「支援者」をどう作っていくかということもポイントとなってくるんじゃないかと。具体論については、その寺院の状況に応じ其々考えていきたいと思っています。

一律の寄付の時代は過ぎ去ったと思っています。よって、寄付の前に「どういうお寺を後世に伝えて」いきたいのか、「本当に伝えていくべきことは何」なのか、寄付の問題の前に十分議論されることが重要でないかと思っています。

## 10 閉会挨拶

### 青少幼年センター部長 安田 雅 氏 ～ 子どもに伝えなければ寺院の未来はない ～



ただいまご紹介いただきました、真宗大谷派青少幼年センター部長の安田雅でございます。福井教区同朋大会に参加させていただき、新しい息吹を感じとさせていただいております。今回ご縁をいただき、本当に大事な場に参加できましたこと改めて御礼を申し上げます。

さて、プロジェクターで映し出されておりますように「子どもたちに伝えなければ、寺院の未来はない」というメッセージをお届けに参りました。しかし、既に今日のワークショップの中に「子や孫に念仏を伝えたい」という項目がございました。どの班も重要度が高いと位置づけておられました。しかし、すぐに出来ることではないとお考えの班がほとんどでした。

次の世代にどうすれば念仏を相続していくかを考えた時に、今まで家庭の中で、おじいちゃんおばあちゃんが教えてくれ、一緒にお内仏に手を合わせ、朝夕のお勤めをしていくという形で、念仏を相続されてきました。そして少し前まで、お寺は寺子屋や保育の場でもあり、普段の遊び場でもありました。またみんなの遊び場でもあり、お寺を身近に感じながら育った。そして自然と手を合わせて念仏し、正信偈が知らない間に身についていくということがありました。

また先ほどの班での意見の中で、夏休みのラジオ体操の後に「子どもたちと正信偈のお勤め会」をというご意見がありました。あらゆる機縁が開かれて、子どもたちに大切なことを伝えて行ける場の創造が願われています。

最後に皆さん方に今日お配りいたしましたクリアファイルの中に、子ども会でご使用いただきたいグッズをご用意いたしました。その他にも無償や有償のものがありますので、青少幼年センターあるいは福井教務所へご連絡いただき、是非とも青少年教化に十分にお役立てください。お寺の未来を共に考える今日の場をこれからも大切にしていただけますようお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

## ○青少幼年教化センター教材一覧

# 11 当日実施アンケートについて（内容及び集計結果）

2016年度 教区同朋大会アンケート用紙

※ 該当の数字を○で囲んでください。ご意見があれば其々ご記入ください。記入したら、各班のBOXに入れてください。

《記入者》 1. 住職(若) 2. 坊守(若) 3. 門徒

低い← 重要度 →高い

低い← 時間がかかる・すぐできる →高い

1 基調講演講師の話を聞いてみて

1	2	3	4
ほとんど重要と思われない	あまり重要と思われない	ある程度重要と思われる	重要と思われる

上記回答について主な理由があれば記入して下さい

2 ワークショップを実践しみて【住職・坊守・門徒が率先してお寺の近未来を語り合う】

1	2	3	4	1	2	3	4
ほとんど重要と思われない	あまり重要と思われない	ある程度重要と思われる	重要と思われる	10年以上かかると思う	数年がかかると思う	1~2年でできると思う	すぐにできると思う

上記回答について主な理由があれば記入して下さい

3 ワークショップを実践してみて【所属の寺院においてやってみる】

1	2	3	4	1	2	3	4
ほとんど重要と思われない	あまり重要と思われない	ある程度重要と思われる	重要と思われる	10年以上かかると思う	数年がかかると思う	1~2年でできると思う	すぐにできると思う

上記回答について主な理由があれば記入して下さい

4 ワークショップを実践しみて【組や団体での事業としてやってみる】

1	2	3	4	1	2	3	4
ほとんど重要と思われない	あまり重要と思われない	ある程度重要と思われる	重要と思われる	10年以上かかると思う	数年がかかると思う	1~2年でできると思う	すぐにできると思う

上記回答について主な理由があれば記入して下さい

5 ワークショップを実践しみて【継続して取り組んでみる】

1	2	3	4
ほとんど重要と思われない	あまり重要と思われない	ある程度重要と思われる	重要と思われる

上記回答について主な理由があれば記入して下さい

6 青少年教化センター部長挨拶を聞いて

1	2	3	4
ほとんど重要と思われない	あまり重要と思われない	ある程度重要と思われる	重要と思われる

上記回答について主な理由があれば記入して下さい

ご協力ありがとうございました。

# ○アンケート集計結果 資料

## 12 実行委員会委員の選定と取り組みについて

### (1) はじめに

趣旨にも謳われているとおり、門徒・僧侶がそれぞれに「私たちが今、どのような場を求めているのか」を「ワークショップの様々な手法を取り入れ、ともに率直に語り合い、ともに楽しんで場を創造していける同朋大会」の開催を願い、計画立案をすすめております。

今回の取り組みには、ワークショップというものがあります。ワークショップの多様な手法や趣旨は、実際経験してみないとわかりません。一度経験してもなかなかです。また、企業や公共機関で実施された経験のある方でも、寺院におけるワークショップはまた一味違います。でも残念ながら、未経験者ばかりでは、当日の同朋大会が楽しい場となるのは難しいということがあります。

よって、同朋大会のみの参加ではなく、より多くの方に事前に実行委員会委員（名前は仰々しいですが、つまりは事前プレ大会参加者＆お寺の将来を多様な視点で考えてみたいと思う方）として、参画いただきたいのであります。

また、寺族・門徒より幅広く参画をいただきたい理由もあります。

#### 【門徒】

同朋大会の願いを具現化する大会とするためにには、12月12日開催の組織拡充小委員会でも確認されましたが、多くの門徒の参画なしには成し得ません。

同朋大会での経験は、実際に各寺院で取り組まれる際でも必ず活かされてくることであり、「寺が安心できる居場所になり、真宗の教えが本当に人の苦しみに寄り添えるものとして機能」するためには、参加された方の呼びかけを媒体として、より多くの門徒の積極的な参画が必要不可欠であるからです。

#### 【住職・僧侶】

一方で、住職・僧侶からは寺院現状を憂い、将来の展望を模索している声は従来から多く挙がっております。その声を門徒と共有する手法、また門徒の声を聞く手法としてのワークショップを是非経験いただきたい。

#### 【坊守】

特に、坊守は日常的に地域と寺院の関係構築における大切な位置に身を置いておられます。実際に寺院で語り合う場の創造とその発信には、寺院と門徒や地域コミュニティーとの懸け橋になっていただいいる坊守の参画と活躍は重要な要素となってまいります。

お寺のことを、「このままでいいのか」「何かできないか」「なんとかしなければ」といった、不安や悩み、熱意や意欲は其々にあるでしょう。また、今回の同朋大会を「聞法会の座談会」と想像してしまう方も多いのでは（違いますよ）。

そんな方々の声掛け合っての参画をどうぞよろしくお願ひいたします。

## (2) 基本方針

- ① 実行委員会委員の選定は、対象毎に順次選定をすすめていく。なお、選定は単なる人の推薦に止まらないよう支援いただく。
- ② 実行委員は、同朋大会までの毎月（2～4月）において、実行委員会でのワークショップに参加し、ワークショップの活用性とその将来性について理解を深めてもらう。
- ③ 実行委員会は、基本全体会として開催し、委員長等の役職を定めず、進行を事務局が行い、出席者の総意で詳細な事項について決定する。その決定内容は、教化委員長に報告し、その承認をもって事務をすすめるものとし、節目において組織拡充小委員会への報告及び承認を得るものとする。
- ④ 実行委員会開催時には、同朋大会当日に向けたワークショップの実践をする。なお、ワークショップ実施にあたり、宗派の「真宗教化センター（企画調整局職員）」の出向協力を得られるよう要望し、もって同朋大会に向けた取り組みとその後の展開について助言・指導をいただく。
- ⑤ 実行委員は同朋大会当日において、一部スタッフとしての配役はあるものの、基本は参加者の一員として、ワークショップに対し馴染みのない方々をケアしつつ参加してもらうこととする。
- ⑥ 同朋大会実施後には、各寺院や団体で積極的に取り組みを進めてもらう一翼を担っていただく。

## (3) 実行委員の選定について

### <門徒>

門徒研修小委員会が主催する組門徒会員研修において「ジョハリの窓」を2017年3月8日に開催を決定している。これを一つの目途として、以下の選定及び各所でのワークショップを盛り込んだ展開を提案する。

#### ① 組門徒会員

2月6日 門徒研修小委員会

- ・3/8「組門徒会研修」の事前質問を決定し案内を送付（出欠込）
- ・各組門徒会宛に、同朋大会の実行委員に参画したい（すべき）人を2～3名以上推薦（本人了解含め）してもらう。

↓

2月27日 実行委員会開催

- ・趣旨と基本事項の確認
- ・ワークショップとは？
- ・簡易ワークショップ実施

※以降、実行委員の方々には定期開催の実行委員会主催の  
ワークショップに参加。

↓

3月8日 組門徒会員研修（全体）

- ・ワークショップ

「門徒が知っていること、知らないこと」

※他、各組での門徒会研修において実施可能であれば  
出向し実施。

↓

5月13日 同朋大会への参加

## ② 推進員

1月20日 月例法話及び推進員新年会にて推進員連絡協議会に依頼。

- ・各組2～3名以上を推薦してもらう。
- ・組門徒会員との重複もあろうと思いますが、細かなことは  
気にしないで、意欲的に。

↓

2月27日 実行委員会開催

- ・趣旨と基本事項の確認
- ・ワークショップとは？
- ・簡易ワークショップ実施

※以降、実行委員の方々には定期開催の実行委員会主催の  
ワークショップに参加。

↓

2～5月 推進員のワークショップ実施

- ・月例法話や推進員の研修会を活用して

↓

5月13日 同朋大会への参加

## ＜住職・坊守・寺族＞

### ① 住職・寺族（僧侶）

既に承諾を得ている企画会メンバーを中心に各組2～3名以上となるよう選定する。新年組会等を通して、同朋大会への参画を広く呼びかけ、興味のある方や意欲的に参加されたい方の参画を広く受け入れる。

なお、住職・寺族対象に寺族研修小委員会主催で「お寺診断」を3月14日に開催し、組門徒会員研修のワークショップを受けるかたちで、ジョハ

リの窓を完成させるワークショップを開催する。

順 次 参画されたい住職（僧侶）を実行委員として選定。

↓

2月27日 実行委員会開催

- ・趣旨と基本事項の確認
- ・ワークショップとは？
- ・簡易ワークショップ実施

※以降、実行委員の方々には定期開催の実行委員会主催の  
ワークショップに参加。

↓

3月14日 「お寺診断」への参加

- ・ワークショップ「寺が知っていること、知らないこと」
- ・〃 「ジョハリの窓」

※各寺院で実施してみたいとの声があれば出向協力する。

↓

5月13日 同朋大会への参加

## ② 坊守

1月17日 坊守会理事会

- ・各組の坊守・若坊守で積極的参画を得られる方や次代を担  
つていただきたい方を、2～3名以上選出していただく。
- ・2月7日の坊守会理事会に各組選出の実行委員の報告。

↓

2月27日 実行委員会開催

- ・趣旨と基本事項の確認
- ・ワークショップとは？
- ・簡易ワークショップ実施

※以降、実行委員の方々には定期開催の実行委員会主催の  
ワークショップに参加。

↓

3月14日 「お寺診断」への参加

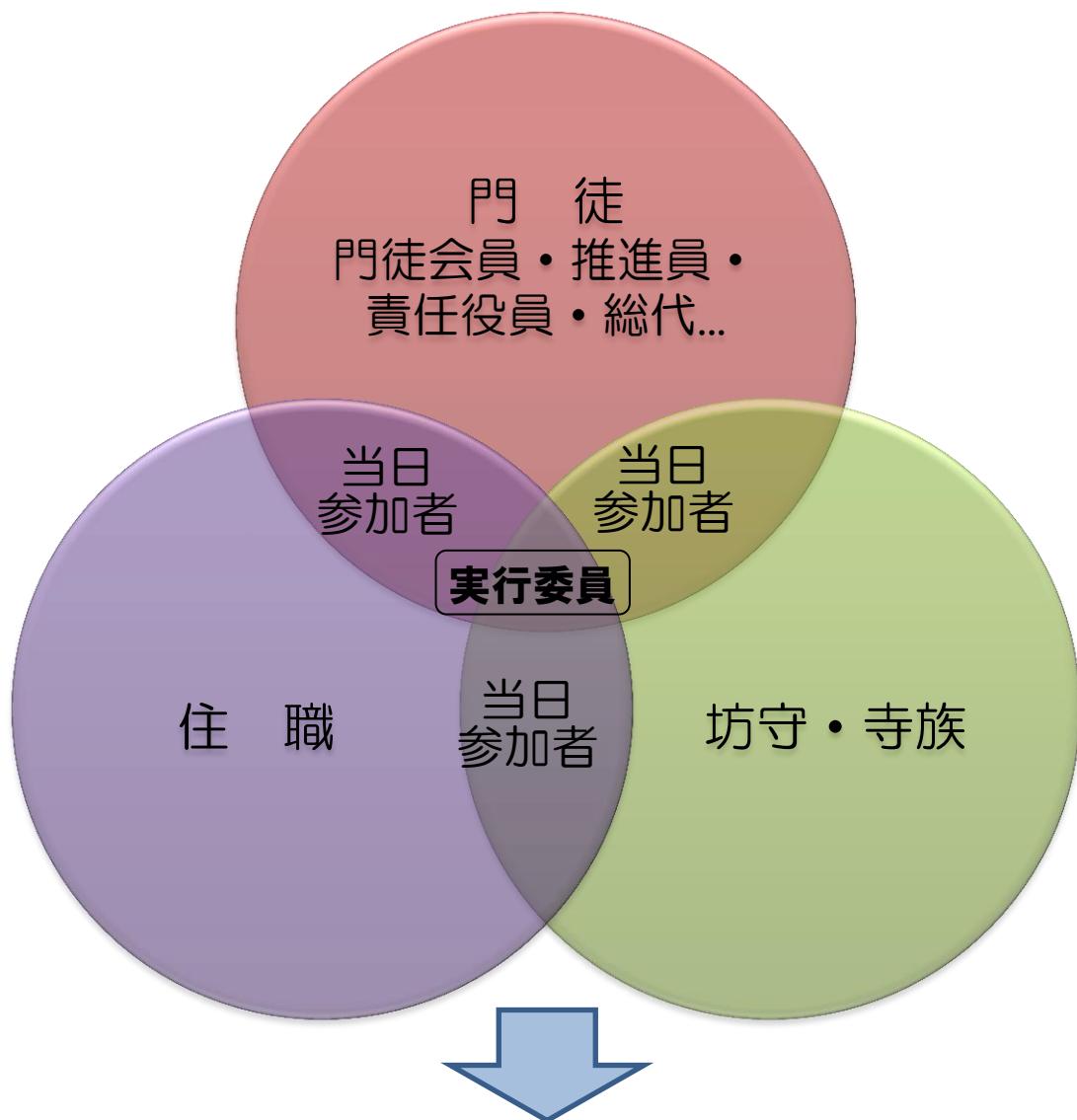
- ・ワークショップ「寺が知っていること、知らないこと」（仮称）
- ・〃 「ジョハリの窓」

※各寺院で実施してみたいとの声があれば出向協力する。

↓

5月13日 同朋大会への参加

#### (4) 同朋大会への実行委員と参加者の参画イメージ



### ＜同朋大会後の実行委員と参加者への願い＞

実行委員と同朋大会に参加いただいた方には、同朋大会趣旨文にも掲げられているように、それぞれの寺院（団体）で住職・坊守・寺族・門徒・

地域の方とともに、「私たちが今、どのような場を求めているのか」を「ワークショップの様々な手法を取り入れ、ともに率直に語り合い、ともに楽しんで場を創造していく場」を整え、「寺が安心できる居場所になり、真宗の教えが本当に人の苦しみに寄り添えるものとして機能して」いくための具体的な施策を語り合いの中で見出し、実践していただきたいと願っております。



# 13 同朋大会後の取り組みについて



① 同朋大会後の各寺院・各団体での取り組みに対し、真宗教化センター・福井教区教化委員会・福井教務所で連携し、**全面的にサポート**できる体制を構築する。

② 同朋大会後に寺院で取り組むといつても、実際のスタートまで大変な時間がかかってしまう（熱量も低下）。取り組みを望む寺院については、**同朋大会に寺族と門徒【責任役員・総代等】が一緒に参加**し、各寺院での取り組みに活用いただきたい。

③ 同朋大会の参加者の中には、得るもののがなかった、必要ないと感じられる方もいるだろう。ワークショップは状況や対象者に応じた手法があり、参加者自身の現状にはそぐわないこともある。別の手法を経験する機会も設けながら、**継続した教区の取り組み**とする。

④ 宗派のドットインフォ（真宗大谷派ホームページ内）や教区広報媒体で積極的に取り上げていき、**広く共有**していきたい。

なお、同朋大会の内容はドットインフォに掲載されていいますのでご覧ください。

ホームページのスクリーンショットです。

左側のナビゲーションメニューには「ホーム」「このサイトについて」「浄土真宗ドットインフォ」があります。

本文部には「真宗大谷派（東本願寺）による浄土真宗のポータルサイト」と表示されています。

右側の記事一覧には、「「お寺について」のマインドマップ@まとめ」という記事が表示されています。

記事本文には、ワークショップの様子や、参加者の感想が記載されています。

右側にはFacebookページの最新投稿が表示されています。

⑤ 伝達手段「寺報」「HP」「SNS」の充実 が挙げられる。教区としてどのように、サポート・提供できるか検討をすすめる。

(例) ○寺報(門徒配布用)の雛形の作成。



誌面の大半を時節毎に記事掲載した雛形を作成し、各寺院の寺院名と行事日程のみを記載すれば門徒配布用の寺報が完成するといったものを作成してはどうか。

○寺院HP・SNSの掲載雛形の作成。

すでに寺院HP・SNSのある寺院もあるが、ネット社会と言われ、HP・SNSの無いものは世に存在しないとさえ言われる現代において、教区内ではまだまだ僅かしかありません。



作業的にやってみたいけれどもわからないといった寺院でも、HP・SNSが設置できる方途を検証する必要もあるのではないか。

なお、先行して福井教務所のFacebook(フェイスブック)をページ開設いたしました。教区の事業案内や報告、また教区内寺院事業も随時掲載してまいりますので是非ご覧ください。

ご意見・感想や「いいね」もどんどんお寄せください。



福井教務所

福井教務所 ホーム 友達を検索

タイムライン 基本データ 友達 11 写真 その他

スタートページ画面

福井教務所さんが写真6件を追加しました。  
15時間前

今日は教区同朋大会に向けての実行委員会「同朋大会のつどい」にてワークショップ「マインドマップ」を体験しました。これまで講師のお話を聞く同朋大会を続けてきましたが、確かにそれも大切だと承知の上で、今回は、ご門徒、寺に身を置くもの全てが、腹割って話せる場にしたいとの願いのもと5月13日に開催します。しかし、当日いきなりワークショップをと言っても無理なので、事前に色々なワークを体験いただくのが「同朋大会のつどい」です。事前と見せかけて、実はすでに大会は始まっているのです。「マインドマップ」については、インターネットで検索すれば出てきますが、要は、発想をいかに開放していくかの思考法です。... もっと見る



いいね! コメント シェアする +2

記事投稿画面

# 寺院（団体）での実際の取り組みとは？

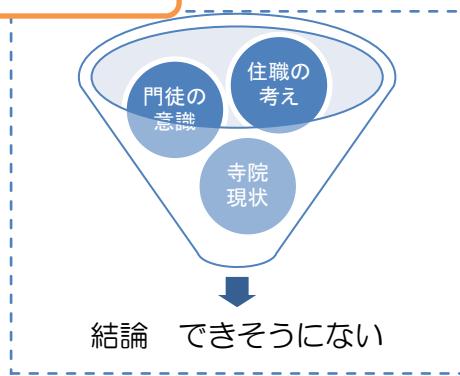
同朋大会をとおして、実際にそれぞれの寺院や団体で取り組みを実践していただきますが、実際に何をするのでしょうか。

真宗大谷派は全国約8,700カ寺、福井教区でも220カ寺弱ありますが、ひとつとして同じ寺院はありません。

よって、各寺院に即した方途を、寺院毎に寺族・門徒とお話し合って（ワークショップも取り入れながら）導きだしていく必要があります。それとおして、段階的に検証し、具体的な施策を導きだし、実践につなげていくことあります。

部分的ですが、いくつかの手法や検証の方向性などを掲載しますので、どうぞイメージを膨らませてみてください。

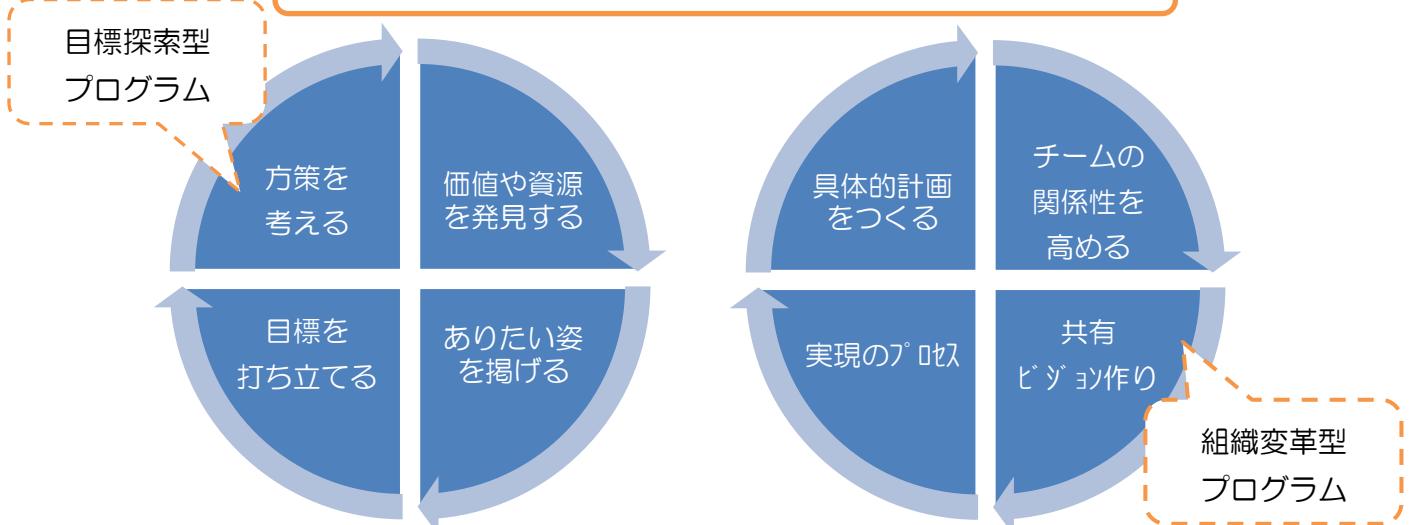
## あるある構図



## ワークショップ（話し合い）の基本ルール

- 1 - 必ずみんなが話します。
- 2 - 人の話を聞くばかりでもダメ、一人で話続けてもダメ。
- 3 - 時間は守って。
- 4 - 他人の意見をさいごまで聞く。
- 5 - 他人の意見を否定しない。
- 6 - 無理に答えようとしなくて結構。
- 7 - 説教NG。
- 8 - 共働の姿勢でのぞむ。
- 9 - スマホ・携帯は 電源を切るかマナーモードに。
- 10 - 気になることが出てきたら みんなで深めていきましょう。

## ワークショッププログラムの基本型（2パターンのみ掲載）



弱みの問題解決より、  
強みを最大限に！

ポジティブ  
アプローチ  
価値や強みを  
活かす

ギャップ  
アプローチ  
課題・弱点の  
克服を重視

## Five Force 分析

### 寺院の外部環境分析

お寺を取り巻く世界を5つに分類して、それぞれの区分に該当する人々との関係性を分析することで、自分の立ち位置を確認するもの。

《5つの種類とは？》

#### ①近隣他寺院（他宗派を含む）

⇒組内や近隣地域のいわゆる「門徒寺」  
(門徒のない観光寺院は含みません。)

#### ②宗派・本山・教区

⇒事業パートナーや同業者組合など  
(企業の場合は仕入れ先を置くこともある)。

#### ③門徒さん

⇒ドラッカーの言葉を借りれば顧客。  
価値の提供を受ける人。

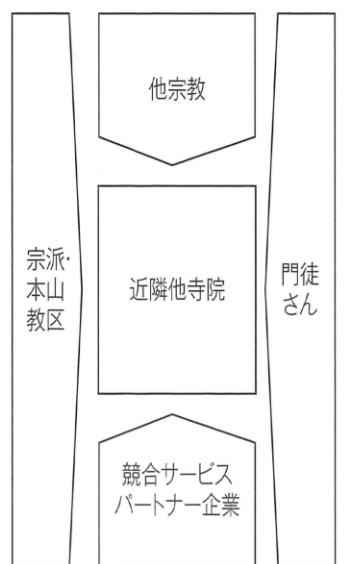
#### ④新宗教・仏教以外の宗教

⇒お寺の教勢を脅かすような他の宗教

#### ⑤競合サービス・パートナー企業

⇒お寺の事業パートナーや存在を脅かす代替サービス  
(イオンの葬儀や格安葬サービスなど)。

### Five Force分析



→ 違ったら  
すぐ引き返す  
→ 丁寧に  
小さな一歩を

大きな一歩より、  
丁寧に小さな一歩を！  
アレット感じても、  
すぐリターンできます

求められている姿が  
どんどんかわる中、  
「お寺はこういう所」と  
がんばるだけでは……

素直にありたいと思う  
寺院の姿へ

こういう所と  
既成概念化した  
寺院の姿から



できることには限界が！  
やりっぱなしや、  
パンクしないよう時々見直しを

## 各所での取り組みについて（紹介）

「私たちが今、どのような場を求めているのか」を起点として各所で話し合い、様々な取り組みがなされておりますので、ご紹介いたします。

### 1 福井教区教学研究所

事業名称 福井教区教学研究所公開講座  
開催日時 2017年5月25日（木）午後7時から午後9時まで  
会 場 福井別院 講堂  
講 師 能郷勇樹氏（小松教区勝光寺住職）  
講 題 グリーフケアと仏教について

浄土真宗ドットインフォ（真宗大谷派HP内）でも特集が組まれ紹介されています「グリーフケア」について、勝光寺の住職・坊守と地域の方々が協力し講座（発信）や取り組みを継続して実施しておられる実状をお聞きすることにより、これまで寺院が担ってきたその役割と今後の可能性及び、その課題を共に考える目的で、「グリーフケア」をテーマに研修をします。

### 2 福井教区坊守会

事業名称 福井教区坊守会 公開聞法会  
開催日時 2017年6月3日（土）午後1時30分から午後4時まで  
※開場は午後1時から  
会 場 福井別院 本堂  
内 容 講演会  
講師 藤場俊基氏（金沢教区常讚寺住職）  
講題「仏教とは どのような教えか」  
コンサート  
ヒナタカコさん（真宗高田派勝久寺若坊守）

対象者 どなたでも参加できます。

教区坊守会は、昨年、教化発信の拠点として開設された「しんらん交流館」を見学しました。交流館では、「地域に開かれた会館」として、誰もが避けてとおれない生老病死をテーマとした講演会が定期的に開かれています。工夫をこらし、さまざまな人たちに向けたとりくみに感銘を受け、帰ってきました。わたしたちも、多くの人に開かれた講演会を開催したいとの思いが深まり、毎月の各組坊守代表者会議で協議を重ねてきました。聞法の場に身を運んでいただくにはどうしたらいいのか。日々の門徒や地域とのかかわりを活かし、坊守としてどのようなアプローチができるのか話し合いました。

「地域で生きる・地域に開かれる」ことをめざし、今後の聞法につながるきっかけにしたいと、企画いたしました。

## 14 同朋大会企画会議招集にあたっての教化委員長趣意書

2016年9月7日

福井教区同朋大会企画会議 御中

福井教区教化委員長 五辻信行

### 福井教区同朋大会趣意書（企画会 提案書）

今日、宗門存立の本義を闡明するため掲げられてきた「同朋社会」を実現するとの目的で推進されて来た同朋会運動の取り組みは、先の教勢調査結果並びにその他散見される諸々の現象（別紙1）に鑑み誠に残念ながら同朋会運動が提唱された当初の宗門の実情よりも更に悪化していると言わざるを得ません。これには++、様々な素因が重なり合って、長い歳月の間に膠着状態が続き、悪化の一途を辿ってきたものでありますから、向後これを看過し続ける事は一層寺院運営の展開を閉ざし取り返しのつかない事態を招く恐れ無しとしません。

さて、昨年度は教区御遠忌を起点として、今福井教区で何を為すべきであるのかを見定めるため、この現状を直視し、教化委員会での話し合いを重ねながら今日に至っています。しかし、これを打開し、克服する取り組みは、教団の総合力が発揮されなければ、寺に住む住職・坊守の視点とご尽力だけでは、充分な成果を得る事は困難であります。

具体的には、本山においては、真宗教化センターからの支援（別紙2）並びに福井教区においては、教区教化委員会の事業内容の見直しと体制の質的転換（別紙3）及び各組の共同教化の充実であります。これらはすべて、1カ寺1カ寺において真宗の聞法道場としての機能が一層回復していくことに繋がるものでなければなりません。

そのためには、まず各寺に伝統されている御仏事が御同行の生活に生き生きとはたらき、地域社会の中に存立する寺の役割が果たされているか否かを当事者自らの眼で厳しく点検され、その現状を正面から受け止めていただくことが肝要であります。これまで力を尽くして来られた御同行と手を携え、寺の行く末をご心配くださっている御同朋に声をかけ、混沌が続く時代にこそお寺に期待の念を心の片隅で抱いてくださっている市民の声に耳を傾けて、今こそ共感と共同の輪を再構築する時ではないかと思います。

その手掛りと確かな手応えを獲得する第一歩として、今年の教区同朋大会を位置づけ、この開催趣旨にご賛同いただいて、1人でも多くの住職・坊守方から立ち上がっていました御同行と共にご参加くださる集いとなりますよう、心から念願する次第です。

その内容と進行並びに大会後の展望につきましては、企画会並びに実行委員会において充分話し合いいただき、ご理解を深めていただきながら具体化いただきますようお願い申し上げます。

本日の企画会では、この提案書について充分ご質疑して、ご理解とご納得をいただきました上には、教区同朋大会での具体的な取り組みの事例とこれを起点とした各寺での実践的取り組みの展開について前名古屋教区駐在教導・現（真宗教化センター）企画調整局参事で能登教区第14組淨願寺住職竹原了珠氏に、様々なご紹介をしながらお話をいたしますので、引き続きご聴取いただき、その上で皆様のご意見を協議しながら進めまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

別紙 1 教勢調査分析資料（同朋新聞抜粋）

2 教区教化委員会全体会（今こゝに【第117号】抜粋）

3 2016年度教区教化研修計画概要

○第7回教勢調査報告資料（同朋新聞）

○教区教化委員会全体会報告（教報）

## 別紙資料3 2016年度教区教化研修計画概要

教化テーマ つながる社会 つながるいのち  
～混沌とした世の中において何が大切か～

2016年度教区教化研修計画概要については、すでに教区教化委員会の話し合いを重ね御遠忌テーマを継承した教化テーマを昨年から継続し、「つながる社会 つながるいのち ～混沌とした世の中において何が大切か～」を掲げ、次の事項を要旨として各事業を推進し、展開できるよう力を尽くしてまいります。

### ポイント

- ① 教区と組が連帯し、組の共同教化の充実を図る  
＝教区教化委員が組事業をサポートしていく体制を作る
- ② 聞法会・学習会を組へ移譲していく＝教区教化事業のスリム化
- ③ 組相互の横のつながりを確保し、情報交流していく
- ④ 福井別院・吉崎別院の持つ本来の機能を活かしていく

課題としては、これまで教区、組、寺がそれぞれの事業を独自に行ってきましたため、縦横のつながりがなく、事業が乱立し、時には教区と組が同様の事業を行うことがありました。福井教区全域から中央に集まって教区教化事業を行うよりも、組や地域の実情に合わせ各組において事業を行う方が、参加者がより多くなる傾向にあります。

この課題を解消するため、先ず各組で行われている事業を把握し、そのうえで教区、組それぞれに今、本当に必要とする事業を精査し、総合的に行われている教区事業の取捨選択を行ってまいります。これにより、教区教化委員が組事業にどう関わっていけるのか模索したり、各組で同様な事業があれば合同で開催することも考慮できることになります。また、横のつながりをもって事業を行う場として、福井・吉崎両別院を積極的に活用することで、地域の教化の中心道場としての別院の機能を回復してまいります。

これらの課題を克服する取り組みが、そのまま今年度開催予定の教区同朋大会に結集されていくことが願われます。

又、宗派教化研修計画において2017年度から3ヵ年は、「組を基軸とした僧侶と門徒の共学の場、共同教化の具体化」を目指すとありますので、その具体化に向けて準備していく年度といたします。特に今年度の事業でいえば、門徒研修小委員会所管事業「推進員養成講座」や青少年教化小委員会所管事業「ひとりからはじめる子ども会支援事業」、社会教化小委員会所管事業「カルト問題移動学習」は縦横のつながりを持っていける事業として実施してまいります。

## 福井教区同朋大会のロゴマークについて

本年度の教区同朋大会の取り組みを、教区内外に広く周知するにあたり、下記のロゴマークを同朋大会実行委員会で策定いたしました。

このロゴマークは、福井教区第8組正法寺 宮谷啓法氏（宗務所出版部勤務）に、教区同朋大会実施計画書の内容をもとに思案の上、作成いただきました。

すでに、寺院での広報物への掲載について問い合わせがございます。作成者ご本人のご承諾もいただいておりますので、是非ご活用ください。

ご希望の方は、福井教務所までご連絡ください。

